

要 旨

本研究は、リスニングにおける3段階のプロセスを意識した音読活動とメモをとる活動を行うことにより、生徒が、まとまりのある英文を聞いて、概要や要点、話者の意向を適切に聞き取ることができるようになることを目指したものである。生徒に、音声面の特徴を意識した音読活動を行わせたことによって、音の変化や強勢などの音声面に留意し、意味のまとまりを意識しながら要点を聞き取る力の向上につながった。また、メモをとる活動によって、まとまりのある英文を聞いて、情報を整理しながら記憶し、概要を理解する力の向上につながった。

〈キーワード〉 ①リスニング力 ②3段階のプロセス ③音読活動 ④メモをとる活動

1 研究の目標

まとまりのある英文を聞いて、話し手が伝えたいことや、聞き手として必要な情報を理解できる生徒を育成するために、音読活動において、リスニングのプロセスと音読のプロセスを関連付けた指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

所属校の中学2年生について、平成26年度実施のCRTでは、「聞くこと」の領域、特に「語や文を正確に聞き取る」という小領域の結果から、英語を正確に聞き取る力に課題があることが分かった。さらに、平成26年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕でも、対話が行われているのがどのような場面かを答える問題の結果から、必要な情報を適切に聞き取ることに課題が見られた。以上のような生徒の実態から、生徒が話し手の意向や話の要点、概要を適切に聞き取れるようになるための研究に取り組む必要があると考えた。

音読活動は、英語における「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の向上に関連している。「聞く」技能においては、正しい発音ができるようになることで、英語の音の変化やスピードに対応して聞くことができるようになる。「話す」技能においては、定型表現の内在化につながり、伝えたいことを適切な英語で発話できるようになる。「読む」技能においては、文の構成を把握しながら読めるようになる。「書く」技能においては、正しい綴りで書くことができるようになり、さらに、書きたいことを適切な英語で書くための定型表現の内在化につながる。この中の「聞く」技能における音読の効果に注目し、リスニング力の向上に資する音読活動を研究したいと考えた。

また、所属校では、生徒の、表現することに対する積極性が低いことが課題とされてきた。本研究は、生徒のリスニング力の向上が主な目的であるが、それに併せて、中学校学習指導要領の「話すこと」に記載されている「強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音すること」や「自分の考えや気持ち、事実などを聞き手に正しく伝えること」に関わる表現力の向上につながる音読活動の効果も検証していく。

一方で、英語を聞く活動における思考力、判断力とは、音声の正確な聞き取りを基盤として、自分に必要な情報は何かと考えながら、意向や要点、概要をつかむ活動に関連するものである。中学校学習指導要領の英語の目標に「初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする」と示されているように、「聞く」活動は単なる技能の習得にとどまらず、思考力、判断力を伴い、コミュニケーション能力の基礎となるものである。

そこで、本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、まとまりのある英文を聞いて、話し手が伝え

たいことや、聞き手として必要な情報を理解できる力を向上させるための音読指導の在り方を探るため、本目標を設定した。なお、目標の中の文言に関して、「話し手が伝えたいこと」は、「発話の中で、話し手が伝えたい意向」であり、要点となる語句を聞き取ることに重点を置いて指導を行う。また、「聞き手として必要な情報」は、「発話から読み取れる話者の心情や場面の状況」であり、語句に表れていない話者の心情や話の流れから察するべき場面の状況をつかむことを中心に指導を行う。

3 研究の仮説

音読活動において、リスニング活動における3段階のプロセスに応じ、音の変化や英語のリズム、意味的なまとまり、場面や人物設定を意識した指導を行うことで、英文を正確に聞き取り、まとまりのある英文を聞いて、話し手の意向、要点や概要をつかむ生徒が育つであろう。

4 研究方法

- (1) 先行研究や文献などを基にした、リスニング活動や音読活動の指導法についての理論研究
- (2) 事前と事後のリスニングテストの結果と音読活動の評価の分析と考察
- (3) リスニングテストの結果を基にした仮説の検証

5 研究内容

- (1) 理論研究を基に、リスニング力の向上につながる音読活動とメモをとる活動を研究する。
- (2) 所属校2年生における「電話でおしゃべり」(3時間)と「体調を尋ねる」(3時間)の検証授業を行い、手立てとリスニング力の向上との関連を分析し、考察する。
- (3) データの分析と考察から、音読活動とメモをとる活動における手立ての有効性を検証する。

6 研究の実際

- (1) 文献による理論研究

音読活動とリスニング力の向上の関連について、小寺光男は、「英文をただ何度も聞くだけの訓練だけでは脳に内蔵化されるには不十分で、聞こえてくる音をできるだけまねて声に出すという音読訓練がリスニング力の向上のために必要だ」⁽¹⁾と述べ、音読活動とリスニングを関連付けることで、リスニング力の向上が期待できるとしている。

音読活動がリスニング力の向上にもたらす効果をより高めるため、リスニングの3段階のプロセスに応じた音読活動を行う。西原真弓は、リスニング力が培われる過程として「①聴覚刺激→音声分析、②意味理解、③情報整理→短期記憶」⁽²⁾の3段階のプロセスを提示している。第1段階は、何を言っているかを聞き取ることができる段階である。第2段階は、聞き取った単語の意味が分かり、瞬時に文の意味が理解できる段階である。第3段階は、長文の中での要点が分かり、既に聞いた情報を記憶して、新しく聞こえてくる情報と組み合わせて概要を理解できる段階である。以上の各段階のプロセスに応じた音読活動を行うことにより、生徒のリスニング力が向上すると考える。

リスニングのプロセスについては、他の研究者による著書でも、関連する理論を見ることができる。門田修平は、リスニング力の向上と、シャドーイングや音読との関係について言及している。なお、シャドーイングとは、聞こえてくる発話に対して、ほぼ同時にあるいは短い間を置いて、その発話と同じ文を口頭で再生する訓練法である。英文を全て聞き取ってから繰り返して発話するのではなく、学習者は、発話し始めた後は英文の聞き取りと口頭再生を同時に行う。門田は、シャドーイングと、英文を全て聞き取った後に反復する音読練習を区別して述べているが、本研究では、シャドーイングを音読活動の中の一形態として扱った。門田は、シャドーイングについて、音声知覚の自動化と構文の内在化の効果があり、リスニング力の向上に有効であると述べている。この音声

知覚の自動化とは、英語本来の発音に慣れさせることであり、3段階のプロセスのうち、第1段階に相当すると考える。また、構文の内在化については、学習者が聞こえた英語を即座に繰り返すことで、内容を語のかたまりで捉えるということであり、第2段階に相当すると考える。

本研究では、以上のようなリスニング力の向上につながる音読活動の効果に注目し、リスニングの3段階のプロセスを踏まえた音読活動の在り方を研究する。

(2) 研究の構想

本研究が目指すのは、まとまりのある英文を聞いて、話し手が伝えたいことや、聞き手として必要な情報を理解できる生徒を育成することである。そのために、リスニングの3段階のプロセスに応じた音読活動を学習活動に取り入れ、それぞれの音読活動により、対応する段階のリスニング力が向上したかどうかを検証する(図1)。

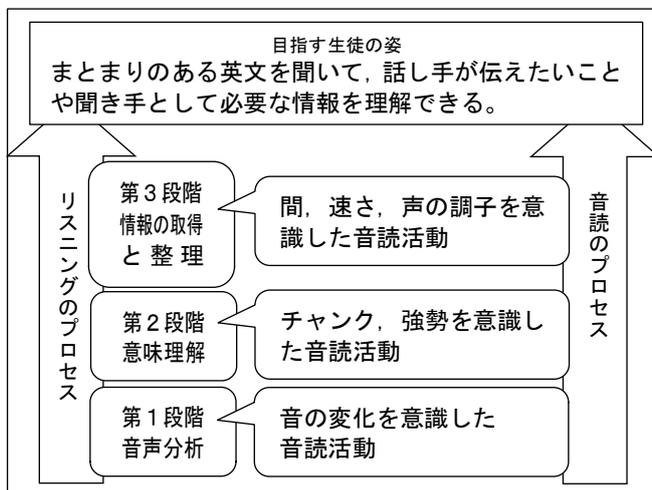


図1 研究の構想図

第1段階では、英語の音の変化を正しく発音しながら音読を行うことで、リスニングにおいて音の変化に対応して聞き取ることができているかということを検証する。第2段階では、チャンクと強勢を意識した音読活動を行うことで、意味のまとまりを理解しながら一文一文を聞き取って理解できるようになるかを検証する。そして、第3段階においては、発話の間や速さ、声の調子を意識した音読活動を行うことで、英文全体の概要や場面の状況、人物の意向を理解できるようになるかを検証する。

(3) 検証授業の実際

ア 検証授業①の課題

検証授業①では、第1時を第1段階、第2時を第2段階というように、3時間をそれぞれの段階に関する活動に振り分けた。第1段階については、音読において音の変化を表現できる生徒が、リスニングにおいても音の変化を聞き取ることができるという相関関係を見ることができた。

その一方で、第2段階と第3段階においては、音読の視点が第3段階まで網羅できていなかったため、音読活動における評価と、リスニング力の間に明確な相関関係を見ることができなかった。第2段階においては、強勢を音読で表現できる生徒がほとんどいなかったにもかかわらず、リスニングテストの難易度が低く、多くの生徒が高得点を取った。第3段階においては、音読の発表活動を行い、人物になりきって意向や心情を効果的に表現しながら音読をさせることをねらいとした。しかし、生徒が、意向や心情を表現するための間や速さ、声の調子に関する視点を明確にもつための手立てが不十分だったため、リスニングテストにおいて向上が見られなかった。

以上のことから、第2段階におけるリスニングテスト問題と、第3段階におけるリスニング力の向上のための手立てにおいて課題が残った。

イ 検証授業②

検証授業①での課題を踏まえ、以下の検証の視点に基づいて、検証授業②を行った。

【検証の視点Ⅰ】音読活動において、心情を表現し、伝えたい内容を効果的に伝える読み方ができれば、英文を聞いて、人物の意向や要点を理解できるようになるのか

【検証の視点Ⅱ】様々な場面の英文を、メモをとりながら聞くことができれば、まとまりのある英文を聞いて、概要を理解できるようになるのか

第3段階においては、要点や人物の意向などの情報を聞き取る力と、聞き取ったそれらの情報を整理して概要を理解する力の2つが必要である。【検証の視点Ⅰ】では、要点、人物の意向、心情をつかむ力を向上させるための音読活動の有効性を検証した。実際のコミュニケーションにおいて、聞き手は、相手が発する語彙以外に、話し方や表情、身振り、状況、会話の流れなど多くの情報から相手の意向を把握している。また、発せられる言葉の意味そのものとは異なる意向が含まれることもある。そのような実際のコミュニケーションの場面に即し、語句やチャンクを正確に聞き取るという第2段階までのリスニング力をさらに発展させ、第3段階では、語句やチャンクがどのように発せられたのかという音声上の特徴に視点を置き、人物の意向や心情、場面の状況などを適切に聞き取る力の育成を目指すものとした。一方、【検証の視点Ⅱ】では、まとまりのある英文を聞いて、聞き取った情報を整理することができる力を向上させるために、音読活動に加え、取得した情報の整理、保持を補完するものとして、メモをとる活動の有効性を検証した。メモをとる活動に関しては、中学校学習指導要領解説外国語編「エ 書くこと」の指導項目に、「聞いたり読んだりしたことを忘れないように簡潔にメモをとっておくこともよく行われる」と示されている通り、情報の整理のために有効だと考えられる。

リスニングを行う際に学習者が行う方略として、池田広子は、ボトムアップ処理とトップダウン処理を取り上げている。ボトムアップ処理とは、音、単語、文法へと小さな単位から大きな単位に処理されていく過程である。一方、トップダウン処理とは、文脈や話題について、学習者がもっている知識や経験などの背景知識を生かして、談話全体から意味を把握する過程である。両方の処理を同時に行うことは困難であり、多くの学習者がボトムアップ処理のみに頼ってしまうことが多い。メモをとることによって、この2つの過程の処理が容易になる。学習者は、ボトムアップ処理の過程で獲得した語句をメモにとり、トップダウン処理の過程においては、それらを再構成して、自分の背景知識を参照することによって、英文の概要を把握することができる。

以上のようなことから、改めて「話者の意図や心情を表現する音読活動」と「メモをとる活動」を視点に加えた研究の構想を整理する(図2)。第1段階における音の変化に対応して聞き取る力、第2段階における意味のまとまりを聞き取る力からさらに音声面の特徴を細かく捉え、第3段階においては、間や速さ、声の調子などの話し方から人物の意向や心情、場面の状況などの情報を取得する力の育成を目指すものとした。一方、取得した情報の整理を補うものとして、メモをとる活動を加え、目標とする生徒像に迫ることができるようにした。

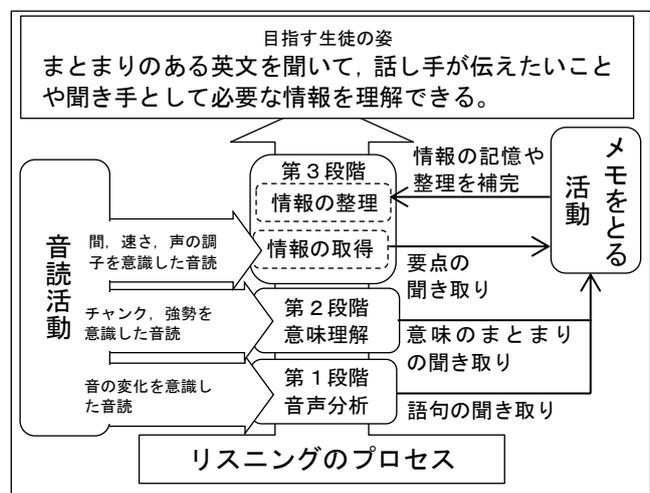


図2 メモをとる活動を加えた研究の構想図

- (ア) 単元名 第2学年 Talking Time「体調を尋ねる」(Total English 2)
 (イ) 単元の概要 (全4時間)

本単元は、体調を尋ねたり答えたりする対話を扱っている。体調を尋ねたり答えたりするためのいくつかの表現が紹介されており、様々なパターンの対話文に触れられる。また、教科書では、様々な体の症状を表す語句が紹介されており、それらの語句を用いて、さらに対話の幅を広げることができる。それらの対話文を用いて、音読活動の第1、第2段階においては、音の変化やリズムを生徒に意識させ、第3段階においては、体調不良の人になりきった発話の

工夫と、薬剤師として、薬を渡すときの注意点を効果的に伝える工夫を考えさせる。

(ウ) 手立て

a 音読活動

検証授業②では、検証授業①で行った音読活動を継続し、音の変化、チャンク、強勢を意識した音読活動を行い、さらに、第1段階に関連して、生徒がより英語の音に集中すること、第2段階に関連して、生徒がチャンクを意識し、滑らかに読めるようになること、そして、第3段階に関連して、発話における表現力をより高めることの3つの目的でシャドーイングを加えた。また、音読の練習を行う際の留意点を明示し、生徒がどのような音読を目指せばいいのかが分かりやすいように配慮した。

音読では、資料1のように、体調の悪い人と薬剤師の対話を用いた。人物の置かれている状況や立場により、どのような発話の特徴が表れるのかを生徒につかませるため、音の変化、チャンク、強勢など、第1、第2段階の音声の特徴を確認した上で、発話の間や速さ、声の調子（強弱と高低）などの視点を紹介した。また、音読活動に入る前に、どのように発話するのかを話し合わせた。

薬剤師	: May I help you?
客	: I want to have something for a cold. I have a fever and a headache.
薬剤師	: Take this medicine after each meal.
客	: Thanks.

資料1 生徒が行った音読の対話文の一例

b リスニング活動

検証授業①の反省から、第2段階におけるリスニングテストを改善し、第2段階と第3段階のリスニング力を検証できるようなリスニングテストを実施した。以上の変更点を具体的に述べる。

(a) リスニングテストの変更

検証授業①におけるリスニングテストは、質問に対する回答の英文を生徒に聞かせ、生徒は、聞こえた英文の強勢の位置から適切な質問文を選択する形式のものであった。それに対して、検証授業②では、聞こえた英文の発話者がどのような意向からその英文を発言したのかを強勢から察する問題とした(資料2)。それにより、第2段階に相当するような、単純に最も伝えたい部分に強勢が置かれるパターンの問題から、第3段階に相当するような、話者の言外の意向を察するパターンの問題まで幅広い難易度の問題となった。なお、at the park (tの脱落)、going to (融合同化)などの第1段階における音の変化も盛り込んだ。

問 聞こえてくる英文は、話者がどのような気持ちで言っているものですか。強く言っている部分を聞き取って、適切なものを選びなさい。

- (1) ア その猫ではなく、その犬を見たと言いたい。
イ 家の前でなく、公園で見たと言いたい。
ウ 今日ではなく、昨日見たと言いたい。

(生徒が聞いた英文、印刷されていない)

He saw the dog at the park yesterday.

- (3) ア 誰か他の人とサッカーをする予定。
イ ジョンと私でサッカーをする予定。
ウ ジョンと私ともう一人でサッカーをする予定。

(生徒が聞いた英文、印刷されていない)

I'm not going to play soccer with John tomorrow.

- (4) ア 太郎はとても良い子だと、心から思っている。
イ 太郎は良い子だと皮肉を言っている。
ウ 太郎は良い子だが、自分の方がより良い。

(生徒が聞いた英文、印刷されていない)

Taro is a good boy. He always makes me angry.

※英文中の下線部が強勢を置いて読まれた語である。

資料2 人物の意向を理解することに視点を置いたリスニング問題(抜粋)

(b) 第3段階におけるリスニング力を向上させるための手立て

検証授業②では、第3段階に関して、情報の取得に関して、なりきり暗唱の活動を行い、情報の整理に関して、メモをとる活動を行った。

まず、なりきり暗唱において定めた視点は、発話の際の間、発話のスピード、声の調子(高低と強弱)であった。この活動により、話者の意向や心情による発話の変化の特徴をつかみ、リスニングにおいて、話者の意向を聞き取る力の向上をねらった。暗唱をさせる前に、ただ英

文を暗唱するのみならず、体調の悪い人と薬剤師のそれぞれの立場で、どのような発話表現がふさわしいかを生徒に考えさせた。生徒は、どういう気持ちのときに間を置くのか、最も伝えたい部分はどのような話し方になるのかなど、人物の立場や置かれている状況により、さまざまな表現の工夫について意見交換を行った上で、暗唱活動に取り組んだ。

メモをとる活動については、視点を明確にし、メモをとることをねらいとしたリスニング活動を実施した(資料3)。この活動では、メモをとることに関連して3つのステップを設定した。

<p>Listening Check Test Friday, January 26th, 2016</p> <p style="text-align: center;">name _____</p> <p>問1 一日の生活を話します。メモ欄の情報を書きなさい。メモは英語でも日本語でもよいです。</p> <p>メモ欄</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black; width: 50%;">(1)起きてまずすること・・・</td> <td style="border-bottom: 1px solid black; width: 50%;">(2)朝食に食べるもの・・・</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">(3)教えている教科・・・</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">(4)電車の中ですること・・・</td> </tr> <tr> <td style="border-bottom: 1px solid black;">(5)夕食と風呂どっちが先?・・・</td> <td style="border-bottom: 1px solid black;">(6)寝る前にすること・・・</td> </tr> </table> <p>問2 CDで英文を聞いて、下の質問の解答をア～ウから選び、記号を○で囲みなさい。メモ欄には、英語、日本語、記号などでメモを書きなさい。</p> <p>メモ欄</p> <p>(1) Where is she speaking? ア At home. イ At school. ウ On a plane.</p> <p>(2) When will they eat dinner? ア At 9:50. イ After take off. ウ On Friday.</p> <p>問3 CDで英文を聞いた後に、先生が英語で質問をします。その質問の解答をア～ウから選び、記号を○で囲みなさい。メモ欄には、英語、日本語、記号などでメモを書きなさい。</p> <p>メモ欄</p> <p>(1) ア On the phone. イ At the airport. ウ At school. (2) ア For two months. イ For two days. ウ For two weeks.</p>	(1)起きてまずすること・・・	(2)朝食に食べるもの・・・	(3)教えている教科・・・	(4)電車の中ですること・・・	(5)夕食と風呂どっちが先?・・・	(6)寝る前にすること・・・	<p style="text-align: center;">音声面の視点</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="text-align: center;">ステップ1</p> <p>音の変化の聞き取り (第1段階) eat dinner (t の脱落) on the train (the の弱化) など 時系列や場所を表す語句の聞き取り (第2段階) in the morning, after breakfast before dinner, at school など</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="text-align: center;">ステップ2</p> <p>音の変化の聞き取り (第1段階) flight time (t の脱落) put your bags (t と y の融合同化) チャンクの聞き取り (第2段階) 12 hours, Friday morning, serve dinner など 機内放送に関する語句を聞き取り、場面を想起する (第3段階) welcome aboard, flight, plane, takes off など</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p style="text-align: center;">ステップ3</p> <p>音の変化の聞き取り (第1段階) sightseeing (t の省略) do you (融合同化) など 強勢の聞き取り (第2段階) purpose, two, return ticket 聞き取った語句から、人物の立場を把握する (第3段階) Next...passport, please. やその他の質問内容</p>
(1)起きてまずすること・・・	(2)朝食に食べるもの・・・						
(3)教えている教科・・・	(4)電車の中ですること・・・						
(5)夕食と風呂どっちが先?・・・	(6)寝る前にすること・・・						

資料3 メモをとることをねらいとしたリスニング活動と音声面の視点

ステップ1では、聞き取ってほしい情報をあらかじめワークシートに示し、聞こえてくる英文の中から、特定の情報についてメモをとる活動を行った。ステップ2では、ワークシートに質問を載せ、生徒にその質問に関連する情報について、自由にメモをとらせた。ステップ3では、ワークシートに質問を載せず、英文を2回繰り返して聞かせた後に質問を聞かせ、自分が聞き取った情報の中から質問の解答を探して解答させる形式とした。

リスニングの音声に関しては、第1段階、第2段階、及び第3段階のそれぞれにおいて学習した音声の特徴に留意し、生徒はそれらに対応して英文を聞き取った上でメモをとる活動を行った。

c CAN-DOリストとルーブリック

本研究では、音読活動とリスニングの関連に併せて、生徒が目指すべき到達目標の示し方を研究した。CAN-DOリストは、長期的な到達目標をまとめたものであり、生徒が中学校3年間を通して目指すべき姿が一見して分かるものである。ルーブリックは、各単元の目標であり、本研究では、CAN-DOリストの中にある関連する項目と評価規準、評価基準を生徒にも分かりやすい形でまとめたものである。検証授業②では、このCAN-DOリストとルーブリックを生徒に提示し、見通しをもたせた上で学習活動を行った。

ウ 分析と考察

まず、検証授業②を経た結果を図3に示す。第3段階に関する問題の正答率について、事前リスニングテストに比べて、事後リスニングテストでは、向上が見られた。検証授業①では、事前リスニングテストからの向上は、事後リスニングテストでは見られなかったことから、検証授業①の課題が改善でき、生徒の第3段階に関するリスニング力の向上につながったと考えられる。それぞれの検証の視点について、リスニングテストの結果や音読の様子からの分析と考察を述べる。

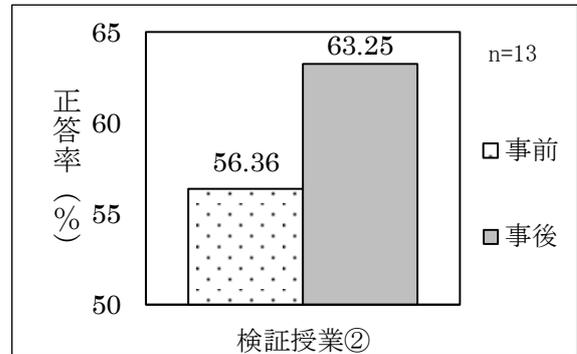


図3 検証授業②の事前、事後リスニングテストにおける第3段階に関する問題の正答率

(ア) 【検証の視点I】音読活動において、心情を表現し、伝えたい内容を効果的に伝える読み方ができれば、英文を聞いて、人物の意向や要点を理解できるようになるのか

a 音読活動の様子とリスニングテストの結果

【検証の視点I】について、音読の評価とリスニングテストの結果の相関関係を分析する。音読活動については、強勢と、話者の意向に合ったその他の表現方法を評価した。リスニングについては、95 ページ資料2のリスニングテストを行った。リスニングの結果と、音読活動の評価の相関関係は、図4のとおりである。

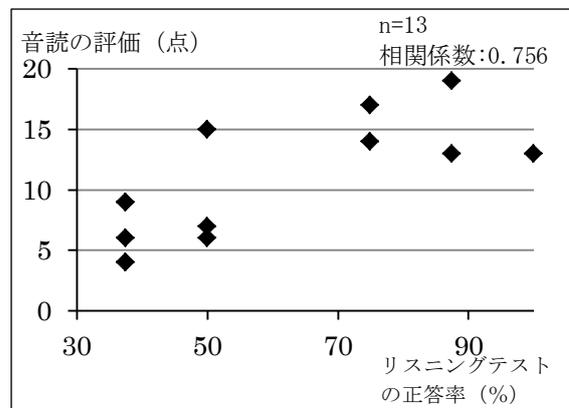


図4 リスニングテストの正答率と音読の評価の相関関係

相関係数は0.756であり、ある程度の相関関係が見られた。話者の意向を理解し、それにふさわしい音読表現ができた生徒が、リスニングにおいても、話者の話しぶりから、意向を察する能力が高いことが分かった。しかし、習熟度の高い生徒と低い生徒がやや二極化された。

b 生徒の意識調査から

まず、意識調査アンケートについて概観する。各設問を、5件法を用いて行い、「～ができる」のような肯定イメージの項目では、「当てはまる」を5、「やや当てはまる」を4、「どちらとも言えない」を3、「あまり当てはまらない」を2、「当てはまらない」を1とした。その一方

で、「～ができない、難しい」という否定イメージの項目では、逆の設定とした。その結果、生徒個人の数値と、設問ごとの数値において、検証授業前と比べて事後で伸びが見られた(表1)。

表1 検証授業②事前と事後の意識調査での数値の変化

数値が増えた生徒 (13名中)	13名
数値が減った生徒 (13名中)	0名
数値が増えた設問 (23問中)	21問
数値が減った設問 (23問中)	2問

次に【検証の視点Ⅰ】について、検証授業②の前後に実施した意識調査の結果から、リスニングの第2、第3段階に関連する項目の結果を分析する。事前調査と事後調査の結果の数値を比較した23項目のうち、生徒が回答した数値の伸び率が最も大きかった5つの項目を表2に示す。

表2 最も伸び率が高かった項目上位5つと伸び率の値

順位	項目	対応するプロセス	伸び率(%)
1	強く読むところと弱く読むところを意識して読んでいる。	第2段階	151
	感情を込めて読んでいる。	第3段階	151
3	話の内容を、メモをとって整理しながら聞いている。	第3段階	138
4	長い文章や対話文で、どんな場面での対話かとか、話し手は何が伝えたいのかが分かる。	第3段階	137
5	聞こえた単語の意味がぱっと出てくる。	第1段階	136

「強く読むところと弱く読むところを意識できる」と「感情をこめて読める」の2つが最も伸びが大きかった項目である。

いずれも音読活動に関する項目であり、視点を明確にして活動を設定したことにより、生徒が学習活動の目標をよく把握しながら活動を行った結果だと考えられる。

(イ) 【検証の視点Ⅱ】様々な場面の英文を、メモをとりながら聞くことができれば、まとまりのある英文を聞いて、概要を理解できるようになるのか

a リスニングテストの結果とメモの内容や量との相関関係

まず、事後リスニングテストにおいて、正解を導き出すために有効だったメモの数と第3段階に関する問題の正答率との相関関係を図5に示す。

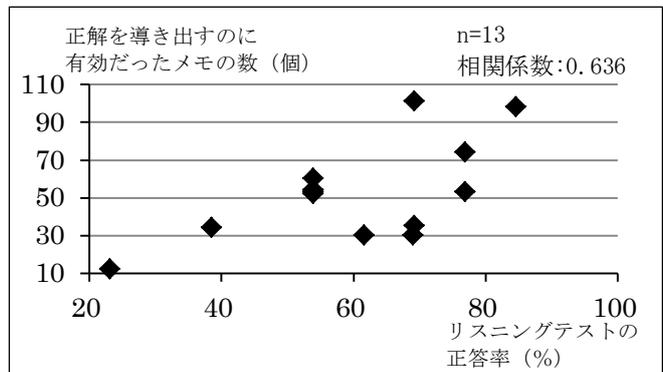


図5 メモの数と事後テスト（第3段階に関する問題）の正答率との相関関係

なお、「正解を導き出すのに有効だったメモ」について、例えば、英文の話題の中で「いつのことであるか」を聞いている設問であれば、それに答えるのに必要なメモは日付や曜日、時刻などである。

相関係数は0.636であり、授業において、話者の意向を反映した話し方の表現を追究したことが、メモの量や内容の向上につながり、リスニングの際には、話しぶりから様々な情報を取得し、それらの情報を整理して概要を把握することができるようになってきたという全体的な傾向が見て取れる。

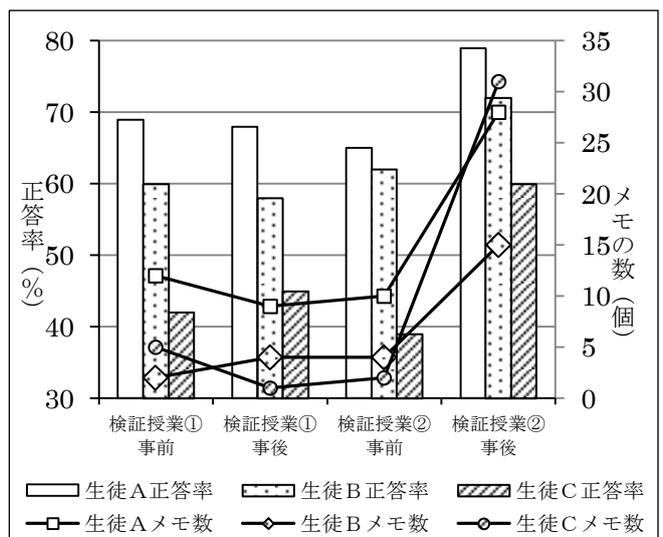


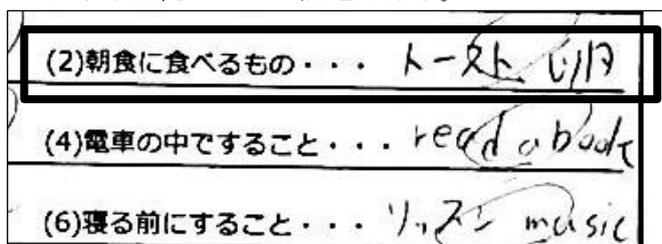
図6 抽出生徒の各リスニングテスト（第3段階に関する問題）の正答率とメモの数の変化

次に生徒A（上位グループから抽出）、生徒B（中位グループから抽出）、生徒C（低位グループから抽出）について、正解を導くために有効であったものとそれ以外を含むメモの総数の変化を個別に分析する。図6より検証授業②後において、それぞれの生徒の第3段階に関する問題の正答率が向上している。また、メモの数においても、検証授業②後において増加している。以上から、メモをとることにより、第3

段階におけるリスニング力が向上したことが関連していると考察できる。

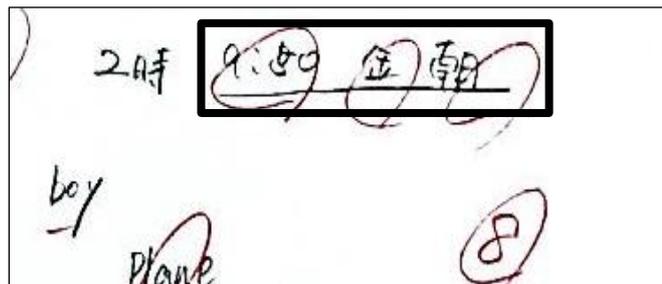
以下の資料4, 5, 6はリスニングテストにおける生徒のメモの記述である。

資料4は、生徒Cのメモの記述である。音の変化としては、「(2) 朝食に食べるもの」に関して、“toast and eggs”の語句で、脱落 (andのaとd) と同化 (andのnとeggsのe) の変化があり、toastとeggsを聞き取ることが困難であるが、それらの音の変化に対応して聞き取り、解答できていた。



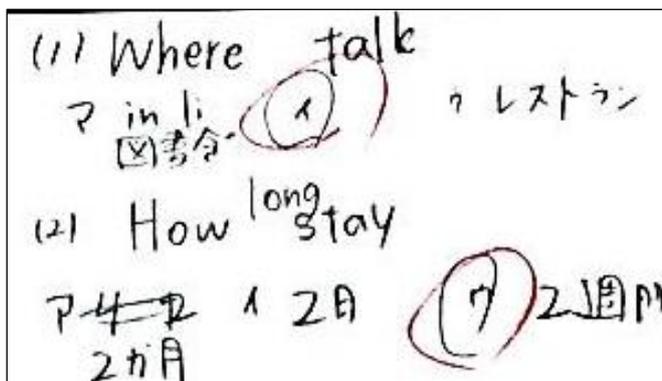
資料4 生徒Cのメモの記述

次に資料5は生徒Bのメモの記述である。聞こえた英文は飛行機の出発前の機内放送であった。発話者である客室乗務員が最も伝えたいことであった到着日時や到着地が全て聞き取れている。またその他のメモについても、英文が誰によって、どのような状況で発話されたものかを理解するために有効な情報となり得るものであった。



資料5 生徒Bのメモの記述

最後に生徒Aのメモの記述を資料6に挙げる。英文は、入国審査官と旅行者の対話であった。使われている語句や、質問と応答が繰り返される対話であることなどから、早い段階で入国審査の場面であることを把握し、要点となるほとんどの語句をメモすることができていた。また、この問題は、質問文も聞き取って解答しなければならないものであったが、それらの質問文についても、要点となる語のみをメモすることができていた。



資料6 生徒Aのメモの記述

以上のようにメモの状況から、生徒のリスニングにおける思考力、判断力の向上を見て取ることができた。

b 生徒の意識調査等から

検証授業②を経た生徒の意識の変化を見るために検証授業②前後の意識調査を比較する。「話の内容を、メモをとって整理しながら聞ける」と考える生徒の割合は、図7に示すとおりである。

事前調査では、メモをとって整理しながら聞けていると考える生徒は15% (2名) だったが、事後は、69% (9名) に増加している。

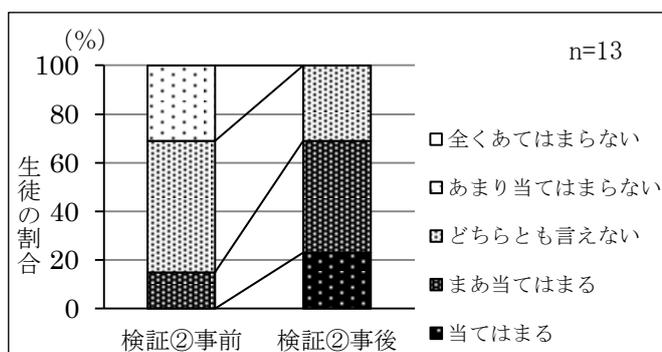


図7 「話の内容を、メモをとって整理しながら聞ける」という項目における回答の状況

最後に、「英文を聞いて、人物の意向や場面が分かる」と考える生徒の割合の変化を図8に示す。「人物の意向や場面が分かる」と考える生徒の割合は、まだ過半数には満たないが増加しており、「分からない」と考える生徒が減少したことが見て取れる。

以上のことから、検証授業②において、人物の意向を表現する音読活動と、情報整理を補うためにメモをとる

活動を経て、リスニングにおいて、概要をつかめるようになる生徒が増加した。今後も取り組みを続けることで、聞こえた英文の概要を理解できる生徒がさらに増加していくと考えられる。

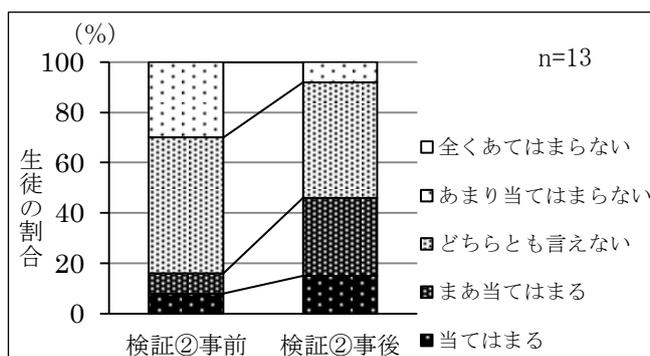


図8 「英文を聞いて、人物の意向や場面の状況が分かる」という項目における回答の状況

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究では、リスニング力の向上における3段階のプロセスで、以下の点が成果として得られた。

- ・第1段階に関連して、音読活動によって、生徒に音の変化を理解、習得させ、生徒が聞こえてくる英語の音の変化に対応して聞くことができるようになった。
- ・第2段階に関連して、チャンクや強勢を意識した音読活動を行ったことにより、生徒の意味のまとまりや、話者の意向を理解する力が向上した。
- ・第3段階に関連して、人物の意向を反映した表現の工夫を追究し、また、メモをとりながら聞く活動を行ったことが、情報を取得、整理し、英文の概要を理解する力の向上につながった。

(2) 今後の課題

- ・第3段階のリスニング力を伸ばすためには、音読活動のみでなく、他の手立てと音読活動を組み合わせることによる手立てを、今後の実践の中で研究していきたい。
- ・CAN-DOリストの作成と活用に関して、さらに文献研究を進め、生徒の実態に即したものを作成する必要がある。

《引用文献》

(1) 小寺 光雄

「音読指導を加えたDVD利用のリスニング指導について」『福井工業高等専門学校研究紀要 人文・社会学 第39号』平成17年 p.153

(2) 西原 真弓

「英語リスニング能力向上を目的とした指導のあり方」『活水女子大学紀要』平成24年 p.7

《参考文献》

・文部科学省

『中学校学習指導要領解説 外国語編』平成20年 開隆堂

・文部科学省初等中等教育局

『各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定のための手引き』平成25年

・日本教材文化研究財団

『英語科における「思考・判断・表現」の評価に関する研究』平成26年 調査研究シリーズ57

・門田 修平

『シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学』2015年 コスモピア

・池田 広子

「英語のリスニング・ストラテジーに関する一考察」『京都創成大学紀要 第3巻』2003年